

COVID-19は、本年5月に5類感染症へ移行した後再び発生数が増加しましたが、定点報告によれば9月上旬から中旬あたりをピークに減少傾向に向かい、入院患者数も比較的落ち着いた形で推移し、減少傾向に入っています。一方、夏シーズンも一定数報告がみられたインフルエンザは9月に入り増加傾向となり、例年（COVID-19流行中の2021～2022年を除き）より2～3か月ほど早い発生となりました。COVID-19とインフルエンザの流行曲線は9月下旬あたりで交差し、11月初旬現在、主役がCOVID-19からインフルエンザに入れ替わったような感があります。またこれまでにないヘルパンギーナや咽頭結膜熱の発生、一方では同じエンテロウイルスでも少ない発生数で推移している手足口病、毎年比較的安定して流行する突発性発疹はこれまでにないような発生数の少なさであり、首をかしげることの多い感染症の状況の中で、「感染症はコロナだけではない」と油断ができない小児科の診療風景かと思えます。

さて、COVID-19パンデミックの最中は「検査はしてくれるが診察はしてくれない」「コロナであるというだけで診療を断られた」などという、本来医療としてあるべき姿ではない話も少なからず聞かれましたが、本号の特集はまさに目の前の患者を診る第一歩である「診察」について「見直そう・教え

よう 子どもの診察スキル」とのタイトルのもと、子どもたちを診る、そしてそれを後輩たちに伝えることの重要性を多くの先生方に熱く語っていただきました。初学者・ベテラン、専門領域・得意分野を問わず、すべての読者の方々に通読されること強くお勧めする特集となっています。

総説では、まさにタイムリーとなった「インフルエンザとCOVID-19」、症例にもCOVID関連としてADEM様病変の12歳男児例の報告などがあります。その他の症例報告・目で見える小児科には、日常診療の中で遭遇するかもしれない貴重な経験について3編のご報告をいただきました。連載の「実例でわかる臨床研究入門」では、研究のスタートである研究デザインを学ぶことの意義（ワクワクして研究デザインを考える、とあります）についてご説明いただき、また最近の海外文献紹介についてはいつものように日本医科大学小児科学教室より消化器関連の最新業績の紹介をいただいております。

猛暑の夏とそれを引きずった秋からようやく紅葉の便りとなり、そしてあつという間に冬模様となります。診療の合間にどうぞ本誌11月号に目をお通しください。

（岡部 信彦）

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第64巻 第11号 11月増大号

2023年11月1日発行（毎月1回1日発行）

定価5,060円（本体4,600円＋税10%）

年間購読料金

定価48,950円（本体44,500円＋税10%）

〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03-3811-7165〔雑誌部直通〕

Tel 03-3811-7184〔営業部直通〕

Fax 03-3813-0288

www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03-3637-0005

広告申込先 株式会社文京メディカル Tel 03-3817-8036

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。